

刊行にあたって

歯科治療における材料は日進月歩で改良されており、とくにメタルフリー材料の革新が著しい。元来、オールセラミック修復においても、支台築造はメタル材料で行うしか方法がなかった時代に、ファイバーポストによる支台築造が臨床に応用されるようになったのは、まさにイノベーションであり、これをもって審美治療の土台が確立したとも言える。

ファイバーポストは歯根破折を軽減できる利点から、自費治療への第一ステップとして歯科医師からは重宝されてきた。そして、国内の臨床応用から10年以上が経過し、平成28年にはついに保険収載された。国民全体に恩恵が得られる喜びの声と同時に、自費治療の頼りとしていた歯科医師からの悲鳴も聞かれる。自費治療との差別化や最新材料も踏まえ、ここで改めて支台築造におけるファイバーポストレジンコアを見直す時期に来ていると思われる。

今回、デンタルダイヤモンド2017年1月号より12月号まで連載された「ファイバーポストレジンコアの臨床」を再編集したうえで新規項目を追加し、発刊するに至った。各分野のエキスパートたちが、ファイバーポストレジンコアの基礎から臨床応用に至るまでを、わかりやすく解説している。最新の材料や術式の理解、疑問点の解消まで、日々の臨床に役立てていただければ幸いである。

2018年5月
編集委員一同